



♪新着案内♪

図書だより 10月号



平成 29 年 10 月 24 日 輪島市立輪島中学校

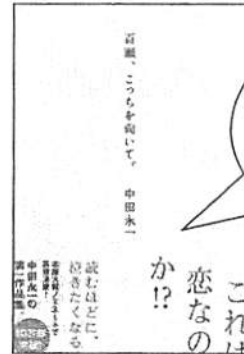
今月は、読書週間の標語「本に恋する季節です！」にちなんで恋愛小説の特集です。本との出会いも恋愛に似ているかもしれないですね。内容は面白いのにもかかわらず表紙がパツとしない本は、残念なことに、なかなか手にとってもらえなかったり…。

「運命の恋をかなえるスタンダード」 水野 敬也/著
 “あーあ 本当にバカな女だ。今日お前が図書館で会ったあのハンサムな男の恋人になる方法を教えてやろうと思ったのに”
 あの『夢をかなえるゾウ』や『人生はワンチャンス!』の著者が贈る最新作です。夢をかなえるゾウに似たストーリー展開で主人公が妙にノリのよい偉人からアドバイスをもらい目標に向かってまっしぐらに突っ走るのです。今回は、あの文豪のスタンダードが本から出てきて恋愛のアドバイスをします! もしも、この本にもっと早く出会えていたら恋愛の達人になれたかも?!



水野敬也
笑いと愛で
いっぱい
の
作品!

「百瀬、こっちを向いて」 中田 永一/著
 “僕と手をつないで、母と話してくれて、髪を切ってくれるなんて、罪深いにもほどがある。”
 主人公の男子高校生は、自称薄暗い電球のような地味系の男子で、当然自分は恋愛とは無縁だと思っている。そんな彼がある残酷なきっかけから野良猫のような目の美しい同級生を好きになる。読後感は、とてもさわやか。



2014年に
早見あかり
主演で映画化。



「桜のような僕の恋人」 宇山 佳佑/著
 “散りゆく花のような君を忘れない。”
 新米カメラマンの晴人は、美容師の美咲と恋に落ちるのだが幸せな時間は長く続かない。彼女は人の何十倍もの早さで年をとる難病にかかっていることが判明。図書室でも予約が多かった『君の臍臓をたべたい』や『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』に似た雰囲気です。
 とにかく泣ける恋愛小説を探している人におすすめ!



「青い月の夜、もう一度彼女に恋をする」 広瀬 未衣/著
 “ずっと君を、未来で待っている。”
 17歳の僕は、京都の嵐山にある祖母の家に帰省した時に「ブルームーンが終わるまでここで初恋の人を待っている」と言う不思議な少女と出会い、やさしい雰囲気の彼女に好意を持ち始める。時空を超えたファンタジー的な純愛小説。結末がどうなるかが気になり、一気に読み間違いなしです。京都の美しい街並みがたくさん登場するので映像化を期待します!

